かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

福東分教会

昭和10年12月３日　設立
平成９年11月30日　落成奉告祭

陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう

今一手一つに、一歩一歩！

＊一教会、初席者一名以上
＊おさづけを身近に
＊百万件のにをいがけ

創立百三十周年記念祭並六代会長就任奉告祭

立教184年(2021年)10月24日 執行

立教183年
3月号

学生層育成者講習会開催

学生担当委員会

大教会学生担当委員会（山野弘実委員長）は2月21日、入江ゆき先生（本部学生担当委員・本理世大教会長夫人）を講師に迎え、大教会2月月次祭後に「学生層育成者講習会」を開催した。学生層をはじめとする道の後継者育成の重要性を理解すると共に、活動を広めていく事を目的に毎年開催しているもの。講話内容は次の通り。

体験を交えて話される入江先生

本日は学生層の育成、学修動員についてお話しします。真柱様は年頭のご挨拶で、「道を通り後に続く人をしっかり育てていくうえにおいて、歩み方の中で基本となるところを、だいぶ忘れてしまっているのではないか。だんだんと流されてしまって、『まだ大丈夫やろ』と思っているうちに、気がついたら今のようになってしまったというような気もする」と仰せられました。後に続く若い人たちに信仰が伝わっていない現状について、育成の基本となるところが忘れられているとご指摘くださいました。私は、まずは自分自身の信仰の基本を見直そうと思いました。本年は真柱様の思いに沿って、育成の基本に立ち返り全教が一手一つに歩ませていただくことが大切だと思います。

▼まずは自らが教えを実践し、気にかけ声かけ

本日は自分が育ててもらった体験を通じて学んだことをお話ししたいと思います。「次代を担う若い子を育てることはにをいがけ・おたすけであり、にをいがけ・おたすけの心でさせていただかなければならない」とお聞きします。学生担当委員会では「誠の心で人材の育成に努めよう」と活動方針を掲げていますが、まずは私たち育成者自身が、信仰はありがたいと、日々喜びを感じ、行いや態度、言葉で伝えさせていただくことが大切だと思います。

教祖はどんな方に対しても「ご苦労さん、よう帰ってきたなあ」といつも優しく温かく丁寧に接しておられたとお聞きしますが、誰しも幼いころにかけてもらった言葉というのは、意外によく覚えているものだと思います。小さいころ、大教会の奥様が私の頭をなでながら、「かしこいなあ、えらいなあ」と褒めてくださっていた。そのことを思い出し、私も、大人でも子どもでも、褒める声かけをしています。先日も鼓笛活動の時に、「バトン上手になったね」と中学生に声を掛けたら、翌日その親御さんからお礼を言われました。ちょっとしたことでも気にかけて声を掛けることが大切だと改めて感じました。

▼生まれた時から始まる丹精

人材の育成には縦の伝道は欠かせません。おさしづに「もう道というは小さい時から心写さにやならん。そこえそこえ年取れてからどうもならん。世上へ心写し世上からどう渡りたら、この道付き難くい。」とありますが、わかってもわからなくても教えを伝えていく。縦の伝道は我が子への布教ともお聞きします。本理世の父は「赤ちゃんでも信者だ。生まれた時から丹精が始まっているんだ。」と子どもに心を掛けることの大切さを教えて下さいました。私自身の幼少期を振り返っても、実家の父は特に朝勤めには厳しく、朝勤めに出ないと兄弟で責任をとらされました。日曜日ぐらいは休ませてもらいたいと父に相談したこともありましたが、父は「お前たちは今何を苦労するんだ。食べるにも、着るにも、住むにも苦労がない。だから朝早く起きる苦労させてやっているんだ。」と一蹴されました。今は厳しく育てていただいたこと有難いと感じています。代を重ねた今の子は苦労がない。何かお道の上で子どもの頃から神様に合わせる苦労をさせることが大事だとも言われます。

▼本理世の信仰

私が嫁いだのは本理世陞級分離後、

七年が経ったころでした。年限の浅い教会でしたので部内の教会長信者さんには信仰初代の方々が大勢おり、助かった話、生きた信仰の話を聞くことができました。本理世の信仰は、親一条、ぢば一条、という姿勢なのです。朝勤めの後、当時会長であった本理世の父は朝席に一時間かけて話をするのですが、特に春秋大祭の真柱様お言葉が天理時報に載るとそれを一か月読み続けるのです。また入江家の信仰の元一日にふれ、報恩感謝の大切さを繰り返し繰り返しお仕込みになりました。さらに、時旬の声を大切にして、今は何の旬か、こどもおぢばがえりの時ならばこどもおぢばがえり、青年会総会ならば青年会総会へ、というふうに時旬の声に部会を問わず大教会挙げて動いています。

▼自らの信仰を深める　にをいがけ・おたすけ

教会の中はにをいがけ・おたすけをするのが当たり前のようになっていました。東本、本芝、本理世と理の流れがありますが、初代は全て女性です。ですから私どもにつながる信者家庭はほとんど女性から信仰が始まっています。本理世の祖父は「信仰は頭でつかむんじゃない、足でつかむんだよ」とにをいがけの大切さを教えてくださいました。私は人見知りなのでにをいがけが苦手でしたが、皆さんと一緒に歩かせていただいて少しずつ学んでいきました。さらに、「常におたすけの相手を持たせていただきなさい。相手がいないと自分がわからないよ。」と諭してもらいました。にをいのかかるのはいんねん通りの方々であり、その言葉の意味がよくわかりました。大教会では、初参拝者を教会にお連れすること、初席を運んでいただくこと、修養科に入っていただくことを布教活動の合言葉として示していただいています。

▼縦の伝道の意識と学修への参加

そうした本理世の布教のベースがあり、縦の伝道も、祖父の代より力を入れております。祖父は人づくりの名人と呼ばれていたようですが、東本初代中川よし先生の元で育てていただいたことを恩に感じ、生涯かけて人を育てることに心血を注ぎました。その祖父がいつも、「子どもはいつまでも子どもじゃない。よふぼく予備軍なんだ」と言っていたそうです。ですから、祖父の代より子どもを教会につなげるために鼓笛活動、さらに学修への参加に一生懸命取り組んでいます。学修は信仰心が芽生えるきっかけになりますし、教会も親も学修に行かせれば何とかなると思っています。昨年学修に行った教会子弟の話ですが、彼は当初天理高校の受験を希望していました。しかし会長である父が突然倒れ、母を支えるべくやむなく地元の高校へ進学することになりました。天理高校での吹奏楽を断念して、悶々としながら地元の高校に通っていたのですが、学修に行って一度に変わったのです。これまでは母に言われてから重い腰を上げていたのが、言われなくても自らすすんで教会の用事をしてくれるようになったようです。「学修では学校の友達には話せないことでも、お道の子には悩みを話せる。それがありがたい。」、そう言って学修から帰ってきたそうです。

▼学修に参加したある生徒の感想文

学修に参加したある生徒の感想文を紹介します。「学修を終えて。僕は学生生徒修養会を終えて、人生で初めてあの人のようになりたいと思いました。その人は自分の班のカウンセラーさんです。期間中ずっと朝早くから、元気に明るく通られていて、自分たちが疲れているときでも全く疲れたそぶりを見せず楽しそうでした。また期間中にカウンセラーさんが話をして下さり、男磨きのあいうえお、というものを教えてくださいました。あはあいさつ、いは一手ひとつ、うは敬う、えは笑顔、おは親心。この話を聞いて僕も男磨きのあいうえおを実践し、より男らしいかっこいい人になろうと思いました。今回僕は学修に参加するのが初めてで、最初はとても不安な中、班長という大役を務めさせていただきました。班の仲間は本当にいい人ばかりで、期間中ずっと楽しく通らせていただきました。そのお陰で班長という役を無事務めることができました。期間中、班の仲間とのすれ違いでもめた事もありましたが、話し合いをしてお互いが反省しあうことで絆がより深まりました。学修に参加する前は部活が忙しかったし楽しかったので、部活に戻りたい、早く帰りたいと思っていたのですが、学修での一日一日を過ごしていくうちに、まだ帰りたくない、楽しい

と思うようになり、最後の別れの時は本当に寂しかったです。僕が今回こんなに楽しく学修を終わらせることができたのは、班の仲間、カウンセラーさん、講師の先生、そして最後にいつも面倒を見てくれる親のおかげだと思います。一週間本当にありがとうございました。」

▼道の人材を育てる教会活動

以前真柱様は大祭の講話で、「それぞれの教会の活動も各部会の活動も全て、道の人材を育て増やすものだといっても過言ではありません。」とお話しくださいました。学修につなげるためには高校生になってからではなく、幼少時より意識を持った縦の伝道が大切だと思います。私の知人の教会長は縁故ない教会を任され、地域に根差すために子ども食堂やおとまり会をおこなっています。その彼は、「今は教会に高校生はいないが、教会で催す行事に参加してくれている子どもたちがやがて大きくなって学修に参加してくれることを楽しみにしている。」と、先を見据えて今に取り組んでいます。

私どもの教会では毎週鼓笛活動を行っています。数年前からは赤ちゃんから参加できるように親子リトミックを始めましたが、近隣に住まう様々な国籍の親子も集まり、国際色豊かな活動となっています。

▼いんねんを自覚して
子どもを教会に運ばせる

そういった活動の中から、教会に参拝されるようになる方がおられますが、信仰に反対するご主人が多いのです。その中をお母さんが子どもを教会に送り出す、その信念がとても大事です。そのお母さん方に、「教会に運ぶと先になって子どもが結構になるよ、親の理を頂けるよ。」と励まして踏ん張ってもらいます。特に信仰初代のお母さんはいんねんで苦労しているので、同じ道を歩ませないように一生懸命に子どもを教会に運ばせます。ご主人は子どもたちが家にいないので機嫌が悪いのですが、そこを母親が頭を下げて子どもを教会に行かせる。そうすると次第に子どもが良くなっていくので、そのご主人も文句が言えなくなってきます。

私どもの信者さんの話ですが、子どもの時から教会によく運び、今は結婚し四人の子どものお母さんになっています。私たちは信仰のない家に嫁ぐお嫁さんたちには、「お嫁に行くんじゃないよ、おたすけにいくんだよ。その家の運命を立て替えに行くんだよ」と言って送り出します。「その家の家系からどんないんねんがあるかを知り、そこの家の初代になる。その家のいんねんのお掃除をさせていただくのですよ。」と信仰をもって嫁いでもらいます。そうしますとお姑さんであっても、おたすけの相手だと思って対しますので気持ちも治まります。その結婚相手のご家庭は天理教に大反対だったので、お姑さんから本当に冷たくされ続けたそうですが、そうした中、子どもたちを毎週鼓笛に送り出します。子どもたちは教会で神様のお話を聞き、みんな助け合う心を持ち、挨拶ができるようになる、とても良い子に育っていきます。そうすると子どもたちの変化を見て、お姑さんも、「よく立派に育てたね、本当にいい子ね。」と態度が変わってきます。また、子どもが学修に参加するときに、その高校一年生の子は、「僕が自分の意志で学修に行くということをちゃんと言うから。」と、信仰に否定的なご主人に対して自分の言葉で学修の参加をお願いしたそうです。「お母さんが信仰してきたことは間違ってないよ、とその子が言ってくれた時には本当に涙涙でした。ようやく自分の信仰を子どもたちが受け継いでくれたんだなあと思えた瞬間でした」とその方は述懐していました。

最後に学生担当委員会では、「学修プラスワン」を掲げて、学修参加へのもう一声の声かけを行っています。私は声掛けだけではなく自分の日常行動にプラスワン、もう一つ加える行いを心掛けています。どうぞ、学生会活動に積極的にお声をかけていただくことをお願いして本日のお話しを終えさせていただきます。

教会長講習会 開催

2月25日・26日

布教部

布教部（田中隆之部長）は2月25・26の両日、笠岡詰所三階講堂で教会長講習会を開催、84人（代理人含）が受講した。

午後2時より開講。大教会長様のお手に合わせて三殿遥拝をした後、大教会長様は、笠岡大教会創立130周年記念

祭並びに六代会長就任奉告祭三年千日の二年目の活動目標である「おさづけを身近に」について話された。その中で、おさづけを取り次がせて頂く前に一言でも教理を伝える事が大切であると強調され、相手の心の向きがご恩報じへと切換った時、そこにたすけの輪が広がってゆくと、私たちの二年目の歩みの指針を示された。

続いて外部講師として、上平敏子先生（大縣部属・天平分教会長夫人）が「教会活動の実際・子ども食堂」をテーマに「子ども食堂」の立ち上げから現在までの活動内容を話された。「おかえり子ども食堂」を始めた理由は、長年地域の役を会長とともにつとめさせて頂く中、さまざまな事情を抱えた人があまりに多く暮らしている事を実感した。また「子ども食堂」の取り組みをテレビの報道で知り、地域の居場所を作りたいと思った事と、信者の高齢化が進み何か事を始めて教会に新しい風を吹かせ信者に勇んで貰いたいとの思いからだった。それを後押ししたのが教祖130年祭当日の真柱様の神殿講話だった。それは「長い目で道の将来を担う人材を育てる、また、増やす活動に腰を据えて取り組まなければならない」とのお言葉だった。

平成28年、13人から始めた「おかえり子ども食堂」は、令和元年にはスタッフも含め70人以上の人が参加し、現在では子どもの居場所だけではなく大人の居場所にも繋がっているという。また今は、悩みを抱える人の個人相談を行う「Ｃａｆｅふらっと」の開催や、春・夏・冬休みに一回開催する「学生支援・ありがとうの会」など親神様・教祖の教えに根差した活動を紹介された。

質疑応答では、子ども食堂立ち上げには学校・地域・行政との連携や情報交換・協力体制づくりが重要であり、教会家族の理解と共に家族全員が同じ方向を向いて、教祖の通られたひながたを少しでも歩ませて頂く事が大切だと話された。

引き続き、田中布教部長が挨拶。教会活動の取り組みについて「出来ない事の理由を探すのではなく、出来る事からともに始めさせて頂こう」と参加者一同の奮起を促した。

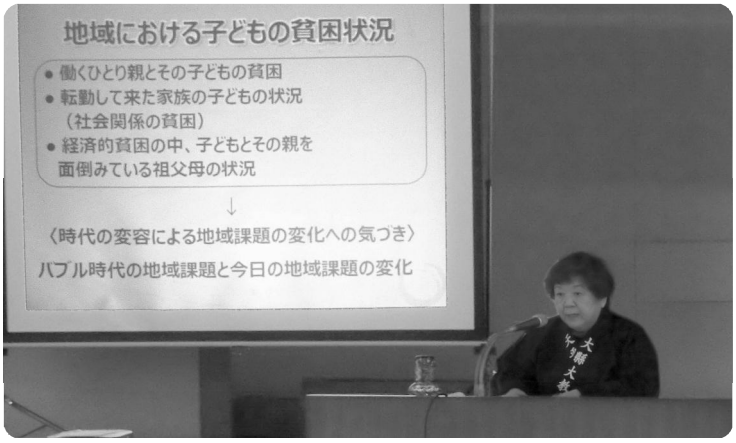
その後、ねりあいを行った。各班とも司会者を立て講話の感想や子ども食堂以外の地域活動、また笠岡大教会創立130周年に向けての取り組みについて活発に意見交換を行った。

午後6時から修練場で夕づとめをつとめたあと、三階講堂で大教会長様を囲んで懇親会を開いた。参加者は一献酌み交わしながら、ねりあいの続きや信仰談議を熱く語り合った。

翌日は、各自穏やかな2月の月次祭を参拝して解散した。

（布教部次長　虫明立生）

大教会長様の挨拶を聴く参加者



「子ども食堂」活動の意味を話される上平先生

真剣にねりあう教会長たち

立教183年　定期巡教表

教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員
廣町	2月13日	上原繁道	陽實	2月12日	大教会長様	雲東	2月11日	三島涉
福廣	2月 7日	山野弘実	御野	2月 8日	山野弘実	神村	2月10日	門脇元教
福勇	3月11日	大教会長様	香地華	2月 9日	杉原博之	呉中	3月 8日	上原志郎
福芦	2月 9日	山野弘実	真金	2月11日	森本忠善	大江橋	3月 5日	三島涉
福満	2月 8日	上原明勇	稲倉	2月13日	上原志郎	品治	2月 7日	上原明勇
福岩	3月12日	上原繁道	稲瀬	3月 5日	中村道徳	久福	2月 8日	佐藤道孝
西村	2月10日	武内正美	稲富士	3月15日	佐藤道孝	呉福	3月 5日	山野弘実
福年	2月 7日	門脇元教	稲讃	3月10日	上原浩	鶴眞	2月10日	谷内伸自
引野	2月 6日	今川昌彦	門司港	2月12日	中村道徳	川島郷	2月10日	田中隆之
福昭	2月11日	谷内伸自	大恵山	3月12日	大教会長様	作備	2月 6日	上原明勇
福春	3月 5日	上原繁道	東水島	2月10日	横山逸郎	輝華	2月13日	大教会長様
福中	2月12日	山野弘実	髙児島	2月 5日	大教会奥様	錦ヶ原	2月 3日	大教会長様
福冨士	3月10日	三島涉	高丸	3月 6日	上原明勇	行滕	2月11日	横山逸郎
福東	2月 9日	大教会奥様	出雲	2月11日	上原繁道	眞府	2月 9日	吉岡誠一郎
東福山	3月 6日	中村剛	瑞雲	2月 6日	上原繁道	吉舍	3月 4日	中島誠治
福南	2月13日	佐藤道孝	錦洋	2月14日	上原浩	清嶽	2月 5日	門脇元教
福順	2月11日	吉岡誠一郎	米府	2月15日	上原浩	上小畠	2月10日	大教会奥様
福節	3月 8日	佐藤道孝	弓ヶ濱	3月 8日	中村剛	木津和	2月 6日	中村道徳
福備	2月 3日	森本忠善	西伯	3月 9日	武内正美	國須	2月 7日	中村道徳
福輝	2月13日	中島誠治	米美	3月 5日	今川昌彦	上吉野	2月12日	今川昌彦
坪生	2月 5日	吉岡誠一郎	伯仙	2月10日	上原繁道	上備	2月 8日	吉岡誠一郎
八尋	2月10日	今川昌彦	照雲	3月 6日	今川昌彦	河佐	2月 4日	田中隆之
深安	3月 6日	大教会長様	松都	2月 7日	上原繁道	上川邊	2月12日	谷内伸自
笠尋	3月 3日	中島誠治	樺島	月 3日	吉岡誠一郎	甲井	2月 3日	中村剛
芦品	2月13日	谷内伸自	新輝豊	3月 3日	上原志郎	上父	3月 7日	横山逸郎
安那	3月 8日	田中隆之	亀田山	2月12日	三島涉	阿木行	2月 2日	横山逸郎
芦田川	3月 3日	大教会奥様	出雲川津	3月10日	中村剛	宇津戸	3月 5日	大教会奥様
三郡	3月10日	上原明勇	天場山	3月 8日	武内正美	府世原	2月12日	上原志郎
芦常	2月 5日	上原明勇	簸ノ川	3月10日	武内正美	神驛	3月 5日	上原明勇
芦加茂	3月 6日	佐藤道孝	多古浦	2月13日	上原浩	神免	2月 8日	門脇元教
惠陽	2月14日	上原明勇	瑞北	3月 9日	中村剛	葦沼	2月 7日	杉原博之

二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に　会長上原理一　慎んで申し上げます
親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに変わらぬ親心でご守護下さるお陰により　日々は結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有り難く勿体ない極みでございます　しかるに心通りのご守護であるが故に　心の使い方を誤り自然災害や新種のウイルス等に苦しまなくてはならない事は誠に申し訳ない次第でございます　親神様のご守護を知る私共は　日々心の埃を払いつつ喜び感謝一杯に心明るく暮らさせて頂いております中に「世界一列をたすけたい」との親心にお応えすべくたすけ一条のご用の上に努め励ませて頂いております
その中にも今日の吉日は　二月の月次祭を執り行う日柄でございますので　おつとめ奉仕人一同　只今から明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めさせて頂きます　御前には今日の日を楽しみに親を慕って寄り集いました道の子供達が　日頃のご高恩に言改めて御礼申し上げ　より一層のご守護にお縋りしようと　共に声高らかにお歌を唱和する状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて本日は祭典に引き続き学生層育成者講習会を開催させて頂きます　「育てにやあ育たん」とお聞かせ頂き　又「十五までは親の心通りの守護　十五からは銘々の心通りの守護」とお聞かせ頂くように　学生時代特に進級・進学・就職の大切な時期にこそ親がしっかりと信仰を伝えていく事が大切と思います　たすけの輪を広げる為にも　お話をしっかり聞かせて頂き実動に邁進させて頂く所存でございます　又中学校までの子供達には　四月一日のおつとめ学び総会を目指してのてをどり・鳴物・祭儀式等の練習を通しておつとめの大切さを知って貰い　将来おつとめ奉仕人として勤められるよう育てて行く所存でございます　更には今月二十五・六日と教会長講習会を開催させて頂きます　記念祭に向けて二年目の成人の歩みを確認し合い　さらなる実動を誓い合いたいと存じます
何卒親神様には　目先の欲に取り憑かれ将来への希望を失いがちな世情の中にも　陽気ぐらし実現という希望を持って　明るくたすけ一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして　万たすけの上に尚も自由のご守護を賜り親心に触れたすけ一条に目覚める人が弥増して　お望み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きの程を　一同と共に慎んでお願い申し上げます

ご案内

★小鼓教室のご案内

日時　毎月25日　午後5時～7時
場所　東右1棟4階講堂（練習場所変更の場合あり）
講師　小松六三郎先生（御津大教会）
年会費　２４００円（各回200円）

※小鼓を持参しない場合は、貸し出し用あり（無料）。毎回50人前後の参加者があり、人気の行事です。初めての方は、雲東分教会長（三代温生先生）にご相談ください。

立教百八十三年 二月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	杉原博之
	吉岡誠一郎

講話
学生層育成者講習会

役割＼区分	坐り勤	前半	後半
地方	吉岡壽	門脇元教	谷内伸自
	中村道徳	上原浩	山野弘実
	上原繁次	山田敏教	内海史郎
おつとめてをどり	大教会長様	中村剛	田中隆之
	上原明勇	今川昌彦	中島誠治
	上原繁道	吉岡誠一郎	森本忠善
	大教会奥様	内海安子	武内正美
	田中ますみ	谷内美知子	高木孝子
	虫明好美	門脇加津	岡崎和美
笛	横山逸郎	佐藤真孝	岡田誠
ちゃんぽん	杉原博之	高木昭祥	赤木素志
拍子木	佐藤道孝	岡崎真一	淺野明教
太鼓	三島渉	三代温生	田林久嗣
すりがね	上原志郎	武内清明	渡邉隆夫
小鼓	中村義太郎	虫明立生	上原繁次
琴	上原順子	森本冨美子	室悦子
三味線	今川佐智子	笹尾一美	山野なつ
胡弓	佐藤香苗	三島照美	吉岡八恵

四月講話
山野弘実

賛者	赤木素志
	虫明立生
指図方	上原明勇

大教会だより

◎教人資格講習会修了者

中期　立教183年2月7日終講
髙屋　武内ゆり
後期　立教183年2月12日終講
福山　田中　旬
全期　立教183年2月12日終講
大惠山　瀬藤勇希

◎本部食堂ひのきしん

自　立教183年2月16日
至　立教183年2月29日
稲倉　大月道昭

よりみち

武漢から蔓延し始めた新型コロナウイルスの感染が世界中多くの国で確認され、社会を恐怖と不安に陥れています。国内でも連日コロナ関連のニュースが報道され、ようぼくとしてどのように受け止めればよいのかと思案していたとき、2月23日付け天理時報で島田久仁彦氏の「納得の説得」を読み感銘を受けました。その中からいくつか引用しますと、『自らの快楽や便利さを追求するあまり、神様から与えられた地球環境や自然への配慮を疎かにしてきたこと』『私たちが生きる地球環境も、そして身体も、すべて神様からの借り物です。唯一、自ら制御できるのが〝心〟なのです』等と述べ、『世界的な脅威に直面し、自らの日々の行いや考えを反省しているところです』と結んでいます。「私たちの基本、道を通り後に続く人をしっかり育てていくうえにおいて、歩み方の中で基本となるところを、だいぶ忘れてしまっているのではないか」という本年の「年頭あいさつ」での真柱様のお言葉が、改めてずしんという重みをもって心に響いてきます。（V）